

第44回応用言語学講座公開講演会

後援: 国際言語文化研究科教育研究プロジェクト経費

(「言語学・応用言語学研究者養成のための講演会・チュートリアル実施プロジェクト」)

移動と状態変化表現の第二言語習得: 認知言語類型論の観点から

講師: スプリング・ライアン先生 (東北大学高度教養教育・学生支援機構講師)

◆講演内容◆

Talmy (1985)の提案した事象合成における言語類型化の仮説は、認知言語学において興味深い問題である。そして、多くの研究 (Spring & Horie 2013, スプリング2015など) が自分の母語と異なるタイプを習得する際、移動と状態変化表現が非常に困難であることを指摘している。本発表ではTalmy (1985)が提案した認知言語類型を取り上げ、認知言語学においてどのような意味があるか、または第二言語習得の分野にどのように応用されているかを紹介し、今後はどのように外国語教育などに繋がっていくかを説明する。

◆参考文献◆

- ・ スプリング・ライアン (2015) 「事象フレームの言語類型と第二言語習得: 移動と状態変化の表現をめぐって」 由本陽子・小野尚之 (編) 『語彙意味論の新たな可能性を探って』 pp. 408-431 開拓社
- ・ Spring, R. & Ono, N. (2014) 'Path doubling: Evidence for the existence of prototype-schema in motion event framing choices'. *Journal of Studies in Language Sciences* 13, pp. 166-191. Kaitakusha, Tokyo, Japan
- ・ Spring, R. & Horie, K. (2013). "How cognitive typology affects second language acquisition: A study of Japanese and Chinese learners of English". *Cognitive Linguistics* 24 (4), pp. 689-710. De Gruyter Mouton

✓ 日時: 2017年2月20日(月) 午後5:00~6:30(開始時間が変更となりました)

✓ 場所: 名古屋大学・東山キャンパス文系総合館6階624室(ファカルティラウンジ)

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/>)

✓ 交通案内: 地下鉄名城線「名古屋大学駅」①番出口徒歩5分

参加無料・事前申し込み不要

お問い合わせ: 堀江薫 <horie@lang.nagoya-u.ac.jp>